

## 第76回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動

(平成9年6月～10月)

### 1. 主な火山活動等

秋田焼山：8月16日昼頃、継続時間約1時間20分間の火山性微動の発生とともに噴火（水蒸気爆発）した。8月17、18日に仙台管区気象台と秋田地方気象台が行った現地観測により山頂付近の空沼南東部に新たな火口とその周辺に噴石および火山灰の飛散を確認したが、すでに噴気活動は認められなかった。

7月初めから10月中旬にかけて仙台管区気象台が実施した火山機動観測（基礎調査）での震動観測によると、噴火後地震回数が増加したが、8月19日をピークに減少した。火山性微動は、7月1回、8月4回、9月2回観測された。

安達太良山：8月の現地観測で、沼ノ平南側一帯の噴気地熱地帯の拡大が引き続き確認にされた。9月の観測では8月と比べて大きな変化はなかった。昨年9月に確認された沼ノ平北部での泥水の噴出は続いており、中央部でも小規模の泥水の噴出が観測された。

9月15日、沼ノ平で登山者4名が火山ガス（硫化水素）により死亡する事故が発生した。

9月16日に振幅の小さい火山性微動が1回観測された。地震活動には特に変化はない。

神津島：GPS観測によると島の膨張傾向を示す変動が観測されている。

### 2. 北海道地方

雌阿寒岳：平成8年11月21日の小規模な噴火以降、特に大きな変化はないが、噴煙高度は噴火前より高い状態が続いている。

十勝岳：6月、7月および9月に振幅の小さい火山性微動が観測された。5月中旬に地震回数が急増したが、6月以降は落ち着いた状態が続いている。

樽前山：地震回数は1～5月と多い状態が続いたが、6月以降は減少傾向である。

有珠山：特に変化なし。

北海道駒ヶ岳：平成8年3月5日の噴火以降、落ち着いた状態が続いている。

### 3. 東北地方

八甲田山：7月12日山麓田代平の窪地で、訓練中の自衛隊員3名が死亡するガス事故があった。大学等の調査によると原因は窪地内の溜った火山起源の二酸化炭素によるとみられる。

岩手山：6、7月に振幅の小さい火山性微動が観測された。山体直下の浅い所を震源とする微小な地震が月に数回観測された。

吾妻山：6月、9月に振幅の小さい火山性微動が観測された。

磐梯山：特に変化なし。

### 4. 関東・中部地方

那須岳：特に変化なし。

草津白根山：特に変化なし。

浅間山：地震回数は5月中旬以降減少し、日回数10回前後以下で推移した。振幅の小さい火山性微動が8月、9月に各1回観測された。

御嶽山：特に変化なし。なお、山体の南東約10km付近での地震活動が続いている。

富士山：低周波地震が8月5日に16回、8月25日に21回観測された。

伊豆東部火山群：6月下旬から伊東市沿岸付近の地震活動が続いていたが、9月中旬には活動は落ち着いた。

伊豆大島：表面現象に特に変化はない。7月15日から16日にかけて島西部で有感地震11回（最大震度3）を含む地震活動が発生した。地殻変動観測によると、島の膨張が引き続き観測されている。

三宅島：表面現象に特に変化はない。地殻変動観測によると、島の膨張が引き続き観測されている。

## 5. 九州地方

九重山：9月3日に星生山の北西4～7km付近で地震が多発した（日地震回数135回）。また、振幅の小さい火山性微動が9月に2回観測された。噴煙の高さは100～300mで推移したが、7、8月に各1回、9月に2回80mに達した。

阿蘇山：火口底は全面湯だまりの状態が続き、噴湯現象が観測された。孤立型微動回数は8月から急減し、9月23日以降はほとんど観測されていない。

雲仙岳：山体付近の地震は少なく、微動の発生もなく、落ち着いた状態が続いている。

霧島山：特に変化なし。

桜島：全般に静穏で、爆発回数は少ない状態が続いた。

## 6. 南方諸島・南西諸島および海底火山

諏訪之瀬島：噴火活動を継続中。